

西播磨県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

西播磨県民局地域創生戦略（2020-2024）を展開する中で、出生数の減少と若者世代の地域外への流出による人口減少が進むとともに（平成27年：260,312人→令和元年：248,747人）、老年人口の割合（平成27年：29.8%→令和元年：32.9%）が高くなり、一人当たりの所得は変わらないものの地域全体の生産力が弱まる（名目GDP 平成28年度：9,820億円→平成29年度：9,781億円（0.4%減少、全県では、1.0%増加））など、西播磨地域全体の活力は徐々に低下してきている。

加えて、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響による観光入込客数の大幅な減少（西播磨・令和元年度：6,187千人→令和3年度：4,277千人）など、地域経済の回復も急がれる状況である。

このため、地域創生の基本理念の下、ポストコロナ社会を見据えるとともに、人口が減少する社会においても地域が活力をもって自立できることを目指し、西播磨ならではの歴史・文化資源等の活用を通じて関係人口や交流人口の拡大を図るとともに、地域の特徴を生かした企業等のさらなる成長を地域全体で応援していく。

また、コロナ禍で変化した、働き方や暮らし方、経済活動等の社会のあり方もふまえ、人口の減少幅をできる限り抑えられるよう、移住・UIJターンの促進や第1次産業等への就職の選択肢を示すとともに、地域に残る伝統文化など地元の魅力をわかりやすく伝えることで、地域外への若者の流出を防いでいく。さらに、結婚や子育てに対する意識醸成や子育て・子育て環境の整備を進め、家庭を持ちたいという若者の希望が叶う体制を構築していく。地域の各主体の力を生かした「参画と協働」を基本としてこれらの取組を積極的に展開することにより、令和4年3月に策定した「西播磨地域ビジョン2050」に掲げる「光と水と緑でつなぐ 元気西播磨」の基本理念のもと、「元気な西播磨」「つながる地域のきずな西播磨」「自立の西播磨」「安全安心の西播磨」の4つの将来像の実現を目指す。

【目標】

KPI	目標
西播磨地域における観光入込客数	7,000千人
西播磨地域における事業所数の維持	11,000事業所
西播磨地域における若者（20歳代）の転出超過数抑制	転入・転出均衡
西播磨地域における婚姻件数(20～44歳)の維持	800件

II 取組の方向性

「西播磨地域ビジョン2050」の「4つの将来像」実現に向けた取組を推進する。

1 元気な西播磨～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

(1) 西播磨ならではのツーリズムの振興による交流人口の拡大

西播磨に存在する山城、地域の伝統文化など魅力的な歴史・文化資源や、「水」をテーマとした清流や食、体験アクティビティ等の魅力ある観光資源を活用する

とともに、マルチメディアによる効果的な情報発信を展開するなど、大阪・関西万博の開催も見据えた西播磨ツーリズムを推進し、国内外からの誘客促進に取り組んでいく。

(2) 地域資源を生かした産業の振興

地元優良企業のブランド力や特色ある農畜産物、豊かな森林など、地域資源を生かした産業を活性化する。

(3) UIJターンの促進

コロナ禍において、生活スタイルや働き方の多様化が進む中で、地方への移住ニーズの高まりに対し、“西播磨暮らし”の魅力を伝えるUIJターンの促進策や、若者の雇用の場の確保により移住・転職等の促進策を推進し、定住人口の増加、地域の活性化を図る。

2 つながる地域のきずな西播磨～地域でともに支え合う繋がりのあるまち～

(1) ふるさとへの愛着の育成

若者のふるさとへの誇りや愛着を育て地元への定着につなげるとともに、地域を支える人材を育成する。

(2) 地域で結婚を進める機運の醸成と子育て・子育ちを応援する環境の整備

独身者が結婚に前向きになるよう様々な機会を捉え、意識醸成に取り組むとともに、安心して子育てできる環境の整備や、子育ちを応援する地域づくりを推進する。

3 自立の西播磨～地域で循環するまち～

(1) 人と自然が共生する地域づくりと資源循環の推進

低炭素社会づくりや生態系の保全を図る環境対策を通じて、豊かな自然環境を守り育てながら人と自然が共生する地域づくりを推進するとともに、食料や木材、エネルギーなど資源の地域循環を活発化させ、持続可能で自立した地域を目指す。

(2) 播磨科学公園都市の魅力発信

播磨科学公園都市で新しい技術を用いた生活支援サービス実証試験への支援など、人と自然と科学が調和する播磨科学公園都市の魅力発信を行う。

4 安全安心の西播磨～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

(1) 社会基盤の整備などによる生活利便性の向上

道路ネットワークの整備を推進するとともに、姫新線など鉄道やバスの利用促進に取り組み、誰もが移動に困らず安心して外出できるよう、公共交通機関の維持・確保を図るとともに、生活圏を維持する新たな地域モデルの構築を支援する。

(2) 様々な人々が共に暮らすための保健・福祉・医療の総合的な推進

誰もが安心して、自分らしく暮らし、元気に活動できる共生社会の実現に向け、質の高い保健・福祉・医療サービスの確保を図る。

(3) 住みやすく元気で安全安心な社会の構築

若者をはじめ住民の防災・減災意識を向上し、地震、津波、豪雨等の自然災害に強い基盤整備を推進することにより、持続的な地域防災力の向上を図る。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 元気な西播磨～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

(1) 西播磨ならではのツーリズムの振興による交流人口の拡大

西播磨に存在する 130 もの山城、地域で体験できる伝統文化、たつの市龍野伝統的建造物群保存地区等の歴史的建築物など魅力的な歴史・文化観光資源や、「水」をテーマとした清流や食、体験アクティビティ等魅力ある観光資源の活用をはじめ、上質なガイドの育成、西播磨「水のさと」マップの作成、AR（拡張現実）を利用した天守の再現などにより、大阪・関西万博の開催も見据えた西播磨ツーリズムを推進し、国内外からの誘客促進に取り組んでいく。併せて、ホームページを核としてSNSやラジオ放送など、マルチメディアによる効果的な情報発信を展開する。

また、兵庫、岡山、鳥取の3県による県際交流を進めるとともに、JR 姫新線、JR 赤穂線、国道 29 号のさらなる活用や、日本遺産等を生かした賑わいづくりに取り組んでいく。

(2) 地域資源を生かした産業の振興

SPring-8 など播磨科学公園都市に集積された科学技術基盤を生かした先端産業を始め、地場産業である素麺、醤油、皮革などの製造を行う西播磨の企業の知名度向上や販路開拓に向けた取組、起業セミナーの開催や人材確保対策など、商工会・商工会議所が行う企業支援活動を応援する。また、西播磨地域で生産される個性・特徴ある農畜林水産物を活用した新商品の開発や生産技術確立に向けた支援、PR コンテストなどを行うとともに、栄養塩の適正管理により豊かな海を創出し、カキ等の水産資源の生産量拡大や水産物のブランド化を推進する。

さらに、地元産のカキの養殖を手がける女性、龍野レザー職人など「輝く女性」の取組を広く発信し、西播磨の女性の活躍を一層促進する。

(3) UIJ ターンの促進

就職を控えた地元の高校生や大学生に対して地域の優良な企業を紹介し、地元への就職や定着を促すほか、地域の特徴である農林業への就業を考える若者やUIJ ターン者等を対象に就業に関する相談や、次世代農業の担い手の確保・育成を図るため集落農業の支援などを行う。

また、コロナ禍において、生活スタイルや働き方の多様化が進み、地方への関心が高まる中で、都市部からの移住・転職希望者等に対して、地域の魅力発信や住居の物件紹介、就職支援などの相談を行うほか、先輩移住者との交流や田舎暮らし体験など移住のサポートを行い、定住人口の増加に向けて取り組んでいく。

2 つながる地域のきずな西播磨～地域でともに支え合う繋がりのあるまち～

(1) ふるさとへの愛着の育成

地域課題に取り組む地元の高校生等の活動を支援するとともに、高校を卒業後、都市部の大学に進学した若者に、ひょうご e-県民制度等を通じてふるさとへの誇りや愛着を育て、UターンやJターンを促す。さらに、伝統文化の保存などの地域活動に若者をはじめ地域外からも協力者を呼び込み、関係人口の増加を図る。

(2) 地域で結婚を進める機運の醸成と子育て・子育ちを応援する環境の整備

結婚に消極的な独身の若者に対して、地域全体で結婚に前向きになるようなキャンペーンを展開し、学生が子育てを模擬体験できる機会の提供や情報誌の発行を通じて、結婚の良さや子どもを持つことの楽しさを伝えていく。

また、結婚を望む独身者の相談や、男女の引き合わせなどの縁結び活動を担う推進員を置くとともに、地元企業や関係機関・団体等と連携して、実情に合わせた結婚支援事業を推進していく。

さらに、将来子育て世代となる若者を応援する団体を支援するほか、安心して子育てできる環境と子育ちを応援する地域づくりの推進をめざし、待機児童解消に向けた保育人材の確保をはじめ、小児医療や児童福祉事業に関し、市町や関係機関と連携・情報交換するなど、子どもが安心して育つ環境整備を進める。

3 自立の西播磨～地域で循環するまち～

(1) 人と自然が共生する地域づくりと資源循環の推進

廃プラスチックの削減に向けた啓発活動等の環境学習等を通じ、美しい西播磨を守り育てる住民意識の醸成を図るほか、シカやカワウなど有害鳥獣の駆除活動を進め、人と自然が共生した地域づくりを推進する。

また、豊かな森林資源を有効に活用するため、間伐などの森林整備を推進するとともに、木質バイオマスの利用拡大を図るなど、木材や食料、エネルギーなどの資源循環の推進を図る。

(2) 播磨科学公園都市の魅力発信

高齢化の進展にも関わらず、車を主な交通手段とせざるを得ない地域住民の移動安全性と利便性の確保に向け、播磨科学公園都市を自動運転技術などの実証フィールドとして活用し、課題解決につながる先端科学技術の開発を支援していく。

4 安全安心の西播磨～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

(1) 社会基盤の整備などによる生活利便性の向上

通勤や通学など日常の生活の足として利用されている JR 姫新線等の維持・利用促進を図るとともに、東西道路の整備に比べて、遅れている南北道路の整備を重点的に進め、播磨科学公園都市を核とした道路ネットワークを形成し、生活の利便性を向上させ、人口流出防止につなげていく。

また、Society5.0 を目指し、ICT を活用した遠隔診療、ドローンによる荷物配送

など、中山間地における日常生活に新たな技術を取り込む実験にも積極的に協力していく。

(2) 様々な人々が共に暮らすための保健・福祉・医療の総合的な推進

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくため、多剤服用による副作用などのポリファーマシーや残薬問題の解決のほか、認知症対策に取り組むとともに、発達障害のある人への理解促進や農福連携による障害者の就労支援など新たな取組にチャレンジし、様々な人々が共に暮らせる社会の実現を目指す。

また、大学の医学部と協力して管内の病院等に医師派遣を行うほか、県立はりま姫路総合医療センターとも連携し、産婦人科医をはじめとする西播磨地域の医師確保に向けた取組を進めていく。

(3) 住みやすく元気で安全安心な社会の構築

安全安心な社会を構築し、災害に強い西播磨をつくるため、地域(地区)の防災訓練やワークショップの開催、防災計画策定等の取組を促進する。

さらに、地域(地区)の防災活動の担い手が高齢化する中、次の世代を担う若者に対して、災害の経験と教訓を伝え、防災活動の担い手としての意識を醸成していく。

また、西播磨は、緑豊かな森林と揖保川、千種川の二大河川を有し、自然環境に恵まれた地域である反面、自然災害時には、これまでも土砂や浸水被害等の脅威にさらされてきたため、西播磨地域総合治水推進計画に基づき、河川下水道、流域、減災対策等を総合的に進めていき、誰もが安心して暮らせる社会を構築していく。